

学びに "プラス1" ～見学学習を有意義にする工夫～

よくみられる見学学習

見学学習は、一般的に、下に示した①～④の流れで行われます。

① 学習課題をもつ



② 見学の計画を立てる



③ 見学する



④ 見学で分かったことをまとめ、発表する



このような流れで見学学習を行った場合、見学して、そこで働く人々へのインタビューなどを行うことで、学習課題はほとんど解決してしまいます。そして、見学後は、新聞等にまとめ、発表するなどして学習が終わります。このような流れで学習した場合、**社会的事象の意味について深く考えることなく学習が終わってしまうことが少なくありません。**

そこで、今回は、**見学前と見学後のそれぞれに、"プラス1"の工夫**をすることで、見学学習をより有意義なものにする実践例を紹介します。

① 学習課題をもつ



見学前に "プラス1"

② 見学の計画を立てる



③ 見学する



見学後に "プラス1"

④ 見学で分かったことをまとめ、発表する



〈小学3年「店ではたらく人」〉

見学前に「プラス1」

本単元では、店の形態によって販売の仕方に違いがあることに気付き、販売に見られる仕事の特色を具体的にとらえます。そして、主な見学先は、スーパーマーケット（以下「スーパー」）となります。子どもたちは、日常生活において、家族でスーパーに買い物に出かけており、「特売セールをしている」「ポイントカードによるサービスがある」こと等について、既に知っている子も多いと思われます。

そこで、スーパーに見学に行った際には、**日常的に気付かない情報や事実を子どもたちが得られるように工夫**します。例えば、スーパーを見学する前に、コンビニエンスストア（以下「コンビニ」）の売り場や駐車場等の様子について、次のような写真や図等を提示しながら子どもたちに確認させておきます。



そして、子どもたちに、「スーパーとコンビニの共通点と相違点を見つける」という**見学の立場を明確に**指示して、**調べる（比べる）観点**を具体的に示します。



【見学の立場】

スーパーを見学して、コンビニと似ているところ、違うところを見つけてきましょう！

【調べる（比べる）観点】

- ・ 駐車場の広さ ・ 駐車場から店舗出入り口までの距離
- ・ 売り場の広さ ・ 売り場通路の長さや幅
- ・ 商品の種類 ・ 商品の並び方（商品配置）
- ・ 倉庫や荷役場の有無や大きさ ・ お客が買い物に要する時間等

どちらの店にもよく行くけれど、
コンビニとスーパーの違いなんて
考えたことなかったなあ…。



つまり、見学前にコンビニに関する情報を与えて、**コンビニと比較しながらスーパーの様子を具体的に調べる**ことができるようにします。

このような工夫により、子どもたちは、見学の立場や調べる（比べる）観点が明確になり、目的意識をしっかりとって見学学習に取り組むことができるようになります。「商品をたくさん売る工夫を見つけてこよう」というような抽象的な指示では、子どもたちは何を調べたらよいか分かりませんね。

このように、**見学前には、子どもたちに対して、新たな視点や立場から見学することを伝えるとともに、調べる観点を具体的に示す**ことが大切です。



スーパーの見学に行って、コンビニとの違いを
いっぱい見つけるわ！

見学後に“プラス1”

見学後、見学で得た情報をただ単にまとめるだけでは、課題に対して追究を深めることはできません。見学後の学習を有意義なものにする手立ての一つとして、「**見学で得た情報を比較しながら話し合う**」ことが考えられます。

例えば、スーパーとコンビニの「商品の種類」や「駐車場の広さや出入口までの距離」等を比較しながら話し合うことにより、それぞれの店について、「何が中心的な商品であるのか」や「ターゲットとしているのはどんな顧客層か」等について追究することができます。

そして、「倉庫の大きさや荷役場の有無」の比較からは、コンビニには、荷役場が無く、大きな倉庫も無いことを確認することができます。そこで、たくさんの種類の商品を買らなければいけないコンビニは、商品の補充をどうすればよいのかを考えさせることにより、必要な商品を必要な時間に持ってくる「ジャスト・イン・タイム」の仕組みについて追究することができます。

また、「商品配置」の比較からは、商品の並べ方にそれぞれ違いはあるけれど、どちらも「お客が店内をくまなく回ることにより、たくさんの商品を買ってもらえるように商品配置がなされている」という共通点を追究させることができます。



見学学習を有意義なものにするためには、見学前にどのような指示を与え、見学後にどのような学習を行うかが重要なポイントになります。

今回は、見学前に、見学の立場を明確に示すとともに、調べる観点を具体的に与えて見学を行い、集めた情報を教室に持ち帰り、比較・検討する話し合いを行うということを視野に入れて見学学習を構想した実践例を紹介しました。

このような構想に基づいた見学学習を行うことにより、それまで見えなかった社会的事象が明らかとなり、より深く追究することができます。

